

天理教 江南支部だより

発行先
発行日
発行責任者
発行住所

江南支部
立教188年10月1日
九里正昭
甲賀町神1750番地の1
10月号 N0303



教祖百四十年祭

第5回 ようぼく一斉活動日

日時：11月1日（土曜日）午前10時開講

会場：甲龍分教会 甲南町池田3555

内容：敷島大教会制作の演劇「扉ひらいて」を鑑賞します。

いよいよ最終回です。家族揃ってご参加ください。

江南支部婦人会おちば伏せ込みひのきしん

日時：10月26日（日）本部秋季大祭

午後1時 真東棟吹き抜け集合

内容：別席場お誓い場清掃予定

持ち物：ひのきしんのできる服装

申込締切：10月4日

※婦人会主催ですが、男の方、少年会員を含め一人も多くご参加ください。



昨年の教区伏せ込みひのきしん



支部婦人会は、8月31日、大原郷分教会を会場にみちのだいはぐくみ塾を開催、7名が参加した。
初めての参加者もいて、自己紹介も兼ねサイコロトークで日常の生活やおさづけの取り次ぎなど話し合いを行った。

おたすけは温かい言葉がけから

ある家庭の話です。ご主人が、夜遅くに仕事から帰ってきました。朝から晩まで働きづめの毎日で、心身ともにボロボロです。思わず「もう仕事を辞めたい」と、奥さんにこぼしました。

すると奥さんは、「何を言ってるんですか。子供と寝たきりのお母さんがいて、わが家はいま大変なんだから、辞めるなんてとんでもない。休まず働いてください」と、ご主人に^{ねざら}労いの言葉一つかけるわけでもなく、取り付く島もありません。

がつくりきたご主人は、母親の部屋を訪ねました。「母さん、ただいま」と声をかけると、母親は横になったまま、「おかえり」と優しく迎えてくれました。そして「おまえ、仕事がつらいんだろう。かわいそうになあ。代わるものなら代わってやりたいなあ」と。

ご主人は、「この母がいるから、つらい仕事もなんとか続けようと思える

んです」と話していました。

母親の言葉からは、息子への愛情と優しさが伝わる一方で、奥さんの言葉は冷たい。この家に奥さんしかいなかったら、ご主人はどうに仕事を辞めていくでしょう。

温かい言葉がけは、人の心を温め、勇ませます。そして、冷たい言葉は人の心を萎^{しぼ}ませます。

たとえば、身上や事情で悩み苦しんでいる人に、「心のほこりが原因なんだから、一生懸命掃除しなさい」と諭しても、その人の信仰心によほどの素地がない限り、たすかりにはつながらないでしょう。これが、「私も掃除のお手伝いをさせていただきますよ」だったらどうでしょうか。

「あなたの心の窓ガラス、外側は拭^ふいてあげましょう。でも、内側は私には無理だから、あなたが自分で掃除してくださいね」

ああしなさい、こうしなさいと、上から厳しく命令するだけでなく、「私も一緒に」と優しく寄り添うことで、相手はホッと安心し、頑張ろうという

気持ちも湧いてくるだろうと思います。

^{ぞうきん}雑巾がけをするとき、バケツの水が冷たかったら、手を入れるのをためらいますよね。でも、温かいお湯が足されてぬるま湯くらいになっていたら、スツと手も入れられるし、汚れも落ちやすくなります。相手の心をふわっと軽くして、その気になってもらう。これが真実あるたすけ心です。

こちらがいくらたすかりを願っても、本人が自分の癖^{くせ}性分^{しょうぶん}を自覚して、心を変える努力をしない限り、本当のたすかりにはつながりません。だから、そのことに早く気がついて、心の向きを変えてもらえるよう、温かい言葉をかけ、優しく手を引いて導いていただきたいと思います。



『みちのとも』より一寸いい話 良かった探し

岡本春江 田原本分教会長夫人

9年前、女性信者のAさんが子宮頸^{けい}がんを思い、「憩の家」に入院されました。教会がおぢばの近くということもあり、私は毎日おたすけに通って

ました。

通い始めてひと月ほど経^たったある日、私は自分の右胸にしこりがあることに気づき、「憩の家」で診てもらうことにしました。

どの科を受診したらいいのか分からず、ちょうど受付に座っていた看護師長に尋ねると、紹介状が必要だと言われました。どうしようかと戸惑っていると、「症状はどんな感じなの？」と聞かれたので「右胸に1・5センチくらいのしこりがあるんです」と答えました。すると、「私の判を押すので、それを持って、すぐに乳腺外科で診てもらってください」と言われたのです。

乳腺外科で診察を受けると、医師が看護師に「いまから受けられる検査、全部予約取って」と指示を出したので、ただ事ではないと感じました。

その日のうちに三つの検査が行われ、翌日から検査が続きました。そして医師から、乳がんと告げられたのです。なんとなく予想していたので、自分でも驚くほど冷静に受けとめることができました。自分の心配よりむしろ、

「教会はどうしよう。家族に迷惑を掛けてしまう」といったことが気になっていました。

病院からの帰り、本部神殿へ参拝に行きました。車を停めてふと前を見ると、大教会長さんが歩いておられまして、すぐに駆け寄り、経緯を伝えると、「いますぐ神殿でおさづけを取り次がせていただくね。大丈夫」と、優しく声を掛けてくださいました。このとき親神様が「大丈夫」とおっしゃった気がして、おさづけの取り次ぎを受ける間も、涙が止まりませんでした。

また、つらいときこそ「良かった探し」をしてみようと思いました。

「がんになったのが私で良かった。母や主人、子供たちじゃなくて良かった」。そして何より、「おたすけ先の方の気持ち少しでも分かって良かった。これは、親神様が下さったプレゼントなんだ」と思え、前向きに考えることができるようになったのです。

その後は、自分の受診票を持っておたすけに通う日々が続きました。そんなある日、Aさんが「奥さんに、おさ

づけを取り次がせてもらってもいいでしょうか？でも、取り次ぎ方をしっかり覚えていなくて……」と言ってくださり、その日から毎日、お互いにおさづけの取り次ぎをさせていただくようになりました。

初診から1カ月後、乳がんの手術が無事に終わりました。入院中は、大教会長ご夫妻が交代でおたすけに来てくださり、おかげさまで5日で退院することができました。退院後もAさんの病室へ毎日おたすけに通い、お互いにおさづけを取り次ぎ、笑い合つて、元気に教会へ戻る、そんな穏やかな日々を送っていました。

しばらくしてAさんも退院し、お勧めしていた修養科を志願してくださいました。とても楽しく元気に修養生活を送り、おちばの素晴らしさをあらためて感じる事ができたそうです。

修養科の期間中も毎日おたすけに通わせていただき、あと数日で修了というとき、Aさんにがんの転移が見つかり、再入院することになりました。その後も入退院を繰り返し、半年後に出

直されました。

出直すその日までおたすけに通っていたので、悲しくて涙が止まりませんでした。しかし、嘆いてばかりではないと思います、再び“良かった探し”をしました。

「毎日、私におさづけを取り次いでくれたこと。おさづけ取り次ぎ後にたくさんお話しできたこと。ご家族の皆さんが、Aさんのために心をそろえ、真剣に神様と向き合ってくれたこと。修養科で大勢の教友と出会い、おちばの温かさにふれてもらえたこと……」。

挙げれば切りがないほどで、私の心も落ち着きを取り戻すことができました。

悲しいときやつらいときなど“良かった探し”すら難しいこともあります。でも、嘆いてばかりでは前に進むことはできません。このとき“良かった探し”ができたのも、前に進めたのも信仰があったからだと思います。

ちなみに、私の身上はまだ治療中ですが、毎日元気に過ごしています。そして、大教会長さんが掛けてくださった「大丈夫」のひと言が、本当に心強

く、ありがたく、いまも支えになっています。



教区布教部がにをいがけ勉強会を開催

8月31日、教務支庁を会場に「にをいがけ勉強会」が開催され、支部から5名が参加した。講師に、西川寿一先生（野宿布教を経験し、今も毎日戸別訪問を中心ににをいがけを行なう教会長）を迎え、講話、質疑応答、にをいがけ実働を行った。



支部ひのきしんデー 鹿深の家

10月6日（月曜日）午前9時～11時30分

10月27日（月曜日）午前9時～11時30分

草刈りを中心に行います。

本年最終のひのきしんデーです。勇んでつとめましょう！

10月支部にをいがけデー

10月28日午前9時～

拠点教会 小原分教会 信楽町小川出271番地